

誰もが安全で快適に生活できる
バリアフリーのまちづくりをめざして

令和元年度
第15回

秋田県バリアフリー推進賞

表彰事例集



受賞一覧【施設部門】

施設名	所在地	設置者
◆大曲リハビリテーションクリニック	大仙市	細川賀乃子
◆コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム	秋田市	社会福祉法人 秋田県身体障害者福祉協会
◆指定障がい福祉サービス事業所 愛仙の華	仙北市	社会福祉法人 秋田ふくしハートネット
◆信クリニック皮ふ科・形成外科	能代市	工藤 信
◆ホテル茅茹荘	鹿角市	株式会社 茅茹荘

※五十音順



秋田県では、誰もが安全で快適に生活できるバリアフリー社会づくりを県民一体となって進めるため、平成14年3月に「秋田県バリアフリー社会の形成に関する条例」を制定しました。その一環として、バリアフリー社会づくりに積極的に取り組んでいる方を表彰し、広く県民の皆さんに知っていただくことによって、バリアフリーをより一層推進する目的で、「秋田県バリアフリー推進賞」を実施しています。

令和2年3月

秋田県健康福祉部 地域・家庭福祉課

〒010-8570 秋田県秋田市山王四丁目 1-1
TEL : 018-860-1342 FAX : 018-860-3844
E-mail:chifuku@pref.akita.lg.jp

大曲リハビリテーションクリニック

所在地 大仙市大曲住吉町1-17
設置者 細川賀乃子

設計者 株式会社松橋設計



講評

- ・駐車場から出入口、待合室、診察室、リハビリテーション室などにかけて段差がなく、エレベーターを設置し、スムーズに移動することができます。
- ・患者の状態に合わせてベットの高さを変えるなど、利用者に配慮した設計となっています。
- ・多目的トイレには大人用ベットが設置され、子どもから高齢者まで様々な方が使いやすい設備となっています。



コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム

所在地 秋田市広面字谷内佐渡100-1
設置者 社会福祉法人 秋田県身体障害者福祉協会

設計者 株式会社草階建築創作所



講評

- ・身体障害者や知的障害者が地域で安心して暮らすための施設で、利用者の状態に合わせて居室の造りを変え、暮らしやすい設計となっています。
- ・障害者の地域生活拠点として、近隣住民の理解が得られ、コミュニケーションがとれています。
- ・身体障害者向けの居室には、車いすの方が使用できる洗面台を設置しています。



指定障がい福祉サービス事業所 愛仙の華

所在地 仙北市西木町西荒井字番屋94-1
設置者 社会福祉法人 秋田ふくしハートネット

設計者 株式会社共立総合設計



講評

- ・駐車場から出入口、施設内には段差がなく、市の「ふくし避難所」を併設し、「福祉の駅」として活用できます。
- ・浴室の手すりを使いやさしいよう工夫し、車いすの方でも安心して入浴できます。
- ・「ふくし避難所」にはオストメイト対応やおむつ交換台のある多目的トイレを設置し、災害時に様々な方が安心して使用できる施設となっています。



信クリニック皮ふ科・形成外科

所在地 能代市落合字上悪土160
設置者 工藤 信

設計者 株式会社建築企画



講評

- ・駐車場から出入口、院内には段差がなく、受付に車いす対応のカウンターを設置しています。
- ・診察室までの通路や入口は広く設計され、電動昇降型の診察ベッドの設置など、受診しやすい環境づくりに努めています。
- ・多目的トイレは車いすの方も利用でき、おむつ交換台やベビーチェアなど使いやすい設備を整えています。



ホテル茅茹荘

所在地 鹿角市花輪字下中島112

設置者 株式会社茅茹荘

※施設の改修につき設計者は省略



講評

- ・エレベーター設置やトイレの改修など、車いすの方でも利用しやすいようバリアフリー化に取り組んでいます。
- ・利用頻度の低い客室を浴室に改修して入口の段差をなくし、浴室内の手すりや補助台設置など車いすでも利用しやすいよう工夫しています。
- ・バリアフリー未対応の部分は、職員の人的サポートによるソフト面での対応充実を心がけています。



◆秋田県バリアフリー推進賞の概要◆

①施設部門(施設の設置者を表彰)

誰もが利用しやすいように配慮された生活関連施設で、条例の整備基準に適合している施設。
既存の施設については、改善に積極的に取り組んでいる施設。

②製品開発部門(製品の開発者を表彰)

高齢者や障害者等の自立支援や介助者の負担軽減を図るための独創的な作品など。製品、試作品、改良品などの別は問わないが、知的所有権を侵害しないものに限る。

③活動部門(一般部門、ジュニア部門(高校生以下))

バリアフリーに関する啓発活動、高齢者や障害者等の社会参加の支援活動など現在も継続しているもの。
ただし、一般部門については2年以上の活動実績が必要。

④バリアフリーマップ部門(一般部門、ジュニア部門(高校生以下))

地域におけるバリアフリーマップの作成の取組が対象。
ただし、作成したマップを配付、ホームページに掲載するなど、積極的に利活用を行っている場合に限る。

◆秋田県バリアフリー推進賞選考委員会◆

全国脊髄損傷者連合会秋田県支部副支部長

五十嵐 憲男

秋田県老人クラブ連合会会長

児玉 長榮

秋田県立大学システム科学技術学部准教授

込山 敦司

特定非営利活動法人秋田バリアフリーネットワーク理事

櫻庭 徹

秋田県バリアフリー社会形成審議会公募委員

菅原 瞳実

50音順・敬称略